

保護者様

横浜市立本宿小学校
校長 松比良 聡夫

令和 4 年度 全国学力学習状況調査の結果について

秋冷の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。令和 4 年 4 月 19 日に全国公立小学校 6 年生、中学校 3 年生を対象に実施された全国学力学習状況調査の調査結果、分析及び考察についてお知らせいたします。

【教科・観点別 学習状況調査結果】

○平均正答率

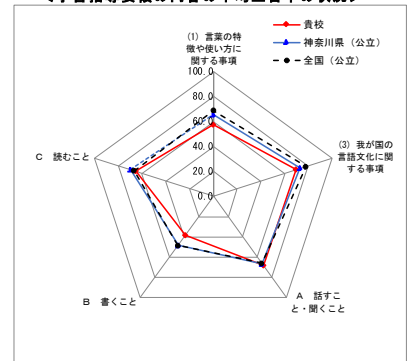
教科	国語 (%)		算数 (%)		理科 (%)	
全国	65.6		63.2		63.3	
神奈川県	65		64		63	
本宿小	59		61		62	
観点	知識・技能	思考・判断・表現	知識・技能	思考・判断・表現	知識・技能	思考・判断・表現
全国	70.5	62.0	68.2	56.7	62.5	63.7
神奈川県	66.8	63.3	69.0	57.5	61.8	64.2
本宿小	59.6	59.3	65.2	56.4	63.3	61.7

【国語】

集計結果

対象児童数		横浜市立本宿小学校	神奈川県 (公立)	全国 (公立)		
		108	69,948	965,308		
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)			
			貴校	神奈川県 (公立)	全国 (公立)	
全体						
		14	59	65	65.6	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	57.6	65.6	69.0
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	69.4	73.2	77.9
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	2	68.1	66.3	66.2
		B 書くこと	2	38.4	47.9	48.5
		C 読むこと	4	65.3	69.5	66.6
		知識・技能	6	59.6	66.8	70.5
評価の観点	思考・判断・表現	8	59.3	63.3	62.0	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	8	67.9	72.9	71.8	
	短答式	3	47.2	57.4	63.6	
	記述式	3	48.8	50.6	51.3	

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



全国平均・神奈川県平均と比較して、やや低い正答率でした。特に、「書くこと」の平均正答率は【38.4%】と、かなり低い結果でした。「書くこと」は、①文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える問題、②文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題の2題が出されていました。

①については、授業で「初め・中・終わり」に着目し、全体の構成を把握することができるように、これまで以上に手立てを明確にして指導していくことが必要であると考えます。

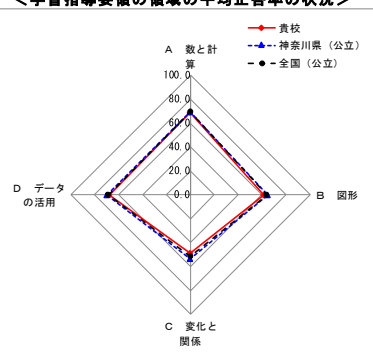
また、②の問題については、無解答率が全国平均よりも8%近く高い結果となっていました。児童間の対話の機会を設けたり、伝えたいと思える場面を意図的に取り入れたりした指導が必要であると考えます。自分の感想、考え、意見に自信をもち、安心して発信できる学習環境や人間関係の構築も大切であると考えます。

算数

集計結果

対象児童数		横浜市立本宿小学校	神奈川県 (公立)	全国 (公立)	
		109	69,951	965,431	
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			貴校	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
全体		16	61	64	63.2
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	68.8	69.4	69.8
	B 図形	4	61.5	64.9	64.0
	C 変化と関係	4	48.9	53.3	51.3
	D データの活用	3	67.9	69.5	68.7
評価の観点	知識・技能	9	65.2	69.0	68.2
	思考・判断・表現	7	56.4	57.5	56.7
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	50.6	53.9	51.8
	短答式	6	73.2	77.0	76.5
	記述式	4	59.6	59.5	60.2

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



全国平均・神奈川県平均と比較して、ほぼ同じくらいの正答率でした。領域別に見ると、「C 変化と関係」が【48.9%】と、50%を割っています。

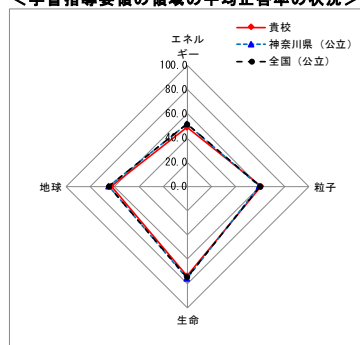
その中でも、全国・神奈川・本校のいずれも 20%台と低い正答率だったのが「数量が変わっても割合は変わらないことを理解している」かを問う問題です。量と割合の概念を正しく身に付けられていないことが伺える結果でした。第 5 学年での割合の単元以前に、第 2 学年での分割分数と第 3 学年での量分数との違いや、かけ算の意味を統合的に理解することができるように、校内で指導方法を共有するなど、身に付けたい資質・能力の育成を図るための指導に、一貫性をもたせていくことも必要であると考えます。

理科

集計結果

対象児童数		横浜市立本宿小学校	神奈川県 (公立)	全国 (公立)	
		109	69,996	965,761	
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			貴校	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
全体		17	62	63	63.3
学習指導要領の区分・領域	A 区分				
	「エネルギー」を柱とする領域	4	49.3	51.8	51.6
	「粒子」を柱とする領域	5	61.1	59.5	60.4
	B 区分				
「生命」を柱とする領域	5	73.8	75.6	75.0	
「地球」を柱とする領域	5	62.4	64.9	64.6	
評価の観点	知識・技能	6	63.3	61.8	62.5
	思考・判断・表現	11	61.7	64.2	63.7
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	11	65.6	67.7	66.8
	短答式	3	68.2	64.1	66.2
	記述式	3	44.0	46.5	47.3

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



全国平均・神奈川県平均と比較して、ほぼ同じくらいの正答率でした。その中で正答率が低かったのが、「実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる」かを問う問題と、「観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる」かを問う問題でした。

いずれの問題も、理科の時間で重点的に指導をしている事柄です。しかし、多くの児童がその学びを生かしきれていない状況が伺えます。「分析して、解釈し、自分の考えをもつ」ということに苦手意識があるようです。実験や観察によって何を解決するのかを明確にした授業や、実験で得られた結果の妥当性などを話し合う場面を意図的に組み込んだ授業の展開を図ることで、これまでよりも自分の考えをもつことができるようになってくると考えます。理科の特性を踏まえ、自然科学の事象との出会いを工夫し、子どもたちの興味関心を高めながら、協働的に、そして探究的に学ぶことができるように、学年に応じた支援の在り方を考えていきます。

【児童質問紙 調査結果】

質問項目	本宿小 (%)	神奈川県 (%)	全国 (%)
分からないことがあったとき、どのようにしていますか。(「自分で調べる」を選択・複数選択可能)	63.3	66.7	68.2
自分にはよいところがあると思いますか。(“当てはまる”を選択した割合のみ)	29.4	40.3	39.4
地域や社会をよくするために、何をすべきかを考えることがありますか。(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)	35.9	51.4	51.3
将来の夢や目標をもっていますか。(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)	80.8	77.6	79.8

○本校の学校教育目標に関わる質問項目からみられる本宿小学校の特徴について

・分からないことがあったとき、「自分で調べる」を選択した割合が全国平均と比べて5%低い結果でした。その一方で、「家族に聞く」を選択した児童が85%と、県・全国平均と比べて非常に高いことから、学習面においてご家庭での手厚いサポートをいただいていることが伺えます。主体的に学び続けられるよう、今後も子ども主体の授業づくりに取り組んでまいります。

・「自分にはよいところがありますか」という設問で、「当てはまる」を選んだ割合は、県・全国平均と比べ、10%以上低く29.4%でした。自己肯定感が低い現状が伺えます。

本宿小学校では、授業やスマイル活動を通して、多様性を尊重し合う心の育成を大きな目標にしています。その中で、互いに認め合えるように声をかけ合ったり、全校で「ほかほか言葉」を使って温かい交友関係を築けるようにしたりしています。今後も自分や相手のよさをたくさん見つけられるように、寄り添い、励ましながら丁寧に支援を続けていきます。

・「地域や社会をよくするために、何をすべきかを考えることがありますか。」という設問では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」を選んだ割合が、県・全国平均と比べ15%以上低く、35.9%でした。本宿小学校では、生活科や梧桐の時間をはじめとした多くの学習活動で、地域の方からお力添えをいただいています。それが、子どもたちの学びへの意欲へとつながり、身に付けたい資質・能力の育成に大きな力となっています。今後は、これまで以上に地域の皆様と連携し、地域の一員として自分は何ができるかを考え、仲間と協働して実践できるような学習計画を立てていかなければならないと考えます。

・「将来の夢や目標をもっていますか。」という設問では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」を選んだ割合が、県・全国平均と比べ高く、80.8%でした。どの学年でも特別活動や梧桐の時間に力を入れており、キャリア教育につながると考えています。引き続き前向きな気持ちをもって学校生活を送ることができるよう支援を続けます。高学年がスマイル活動や委員会活動に一生懸命に取り組んでいる姿は、低学年のとてもよい見本となっているだけでなく、自分自身の成長を実感するよいきっかけになっています。

